

(インドネシア) - 1件

1. ランタウ・デダップ地熱井の開発開始(220MW)

2018年8月5日



南スマトラ州に位置するランタウ・デダップ地熱井の開発が開始される。リダ・ムルヤナ再生可能エネルギー・省エネルギー総局長が、イダ・ヌルヤティン・フィナハリ地熱局長と共に4日に発表した。

ランタウ・デダップ地熱発電事業は、丸紅と東北電力等が出資し、PT. Supreme Energy Rantau Dedap (SERD) を設立。今年3月に、国際協力銀行 (JBIC)、アジア開発銀行 (ADB)、みずほ銀行、三井住友銀行、三菱UFJ銀行が協調融資を行う融資契約に締結をしていた。民間金融機関の融資には、日本貿易保険 (NEXI) が保証を提供した。

発電容量は98.4MWで、国営電力会社 PLN と30年間の売電契約済み。当初8.86セント/kWhだった価格を2017年11月に11.76セント/kWhへ調整を行った。2020年中頃の運転開始を予定している。

(出典: 再生可能エネルギー・省エネルギー総局 (EBTKE) 地熱局)